

こどもの病気対策法¹³⁶

—インフルエンザ—

大分大学客員教授 是松聖悟

毎年、インフルエンザについて説明していますが、必要なことですので今年もこれまでも少し違う内容で解説します。

インフルエンザは、咳、くしゃみで感染し、高熱、咳、鼻汁、嘔吐、下痢などを来します。合併症として、肺炎、脳症、中耳炎、心筋炎、筋炎などがあります。しかし、微熱や軽いかぜ症状だけなのにインフルエンザにかかっている人もいます。

診断は鼻の中を綿棒で拭う検査で行います。発熱初日にはインフルエンザにかかっていることも陰性となることが多く、翌日以降に検査をすることが多いですが、それでも3〜4割の人は何度検査を繰り返しても陽性になりません。なぜ、インフルエンザは流行するかお判りでしょうか？微熱や軽いかぜ症状で病院にもかからずに登園・登校・出勤している子どもと大人、病院での検査で陰性であったからインフルエンザではないと思っ

ているが、ヒトに感染させているからです。

その結果、幼い子ども、高齢者が命の危険にさらされることを知っておく必要があります。その回避をするために、この時期は軽いかぜ症状でも、無理して登園・登校させる、出勤することは避けていた、いただきたいです。

抗インフルエンザ薬を飲めば早く治るのは確かです。しかし、熱が下がるのが1日早くなるだけで、ヒトに感染させる期間は短くなりません。重症化の予防になるとの証拠もこれまでに得られていません。逆に、熱が早く下がったからといって出勤して、ヒトに感染させていることを知っておく必要があります。それを回避するため、咳やくしゃみがある期間はマスクを着用ください。

インフルエンザに感染しないためには、うがい、手洗い、そして予防接種です。そして感染した後、重症化しないためには、安静、栄養、そして事前の予防接種です。

インフルエンザの5つのポイント

- ・咳、くしゃみで感染し、高熱などを来すが、微熱や軽いかぜ症状のインフルエンザの人もいます。
- ・何度検査しても陽性にならないインフルエンザの人はたくさんいます。
- ・抗インフルエンザ薬は発熱期間を1日短くするのみ。
- ・感染しないためには、うがい、手洗い、予防接種。
- ・重症化しないためには、安静、栄養、予防接種。

